

大学の将来計画

大学の将来計画の基本は、ふたつのキーワードによってあらわすことができます。

ひとつは、「大学での学びを大切にする」ということです。そのため、大学の主役であるみなさん一人ひとりが学生生活を充実させ、いきいきと学び、創作・研究活動を行って、卒業後にはそれぞれの夢を叶えることができるようなカリキュラムを編成しています。学士課程全体を通じて、学生の学びを大切にす大学でありつづけること、それが本学の将来計画の最も重要な柱です。

このことを具体的にいえば、授業の「質を保証」していくということです。個々の授業で明示される教育目標が、学修を通じてしっかりと実現されているかどうかを、「達成度」という指標で評価します。これら日々の学修の積み重ねによって、大学卒業後に、「学生時代はよく勉強した」と実感してもらいたいのです。そのための主体的な努力をみなさん自身にも期待しています。

もうひとつのキーワードは、本書の随所に書かれている「藝術立国」です。京都という世界にも稀有な歴史都市の風土と文化を基盤にして、現代文明の矛盾の克服と平和創造をめざす芸術運動を展開し、世界に向けて発信していきます。例えば、大学に附属する「文明哲学研究所」は、「芸術とは何か、人間とは何か」をテーマに研究会やセミナーを開催し、その成果をウェブサイトなどで発信しています。学生のみならずには、そうした活動にも関心を寄せ、より広い視野から人間と芸術に対する思索を深め、自分自身の学びをよりいっそう豊かにしていってほしいと願っています。

本学は、五年毎に学園中期計画を定めて、継続的な教育改革を進めています。学園中期計画とは、「藝術立国」の理念のもと、世界で活躍する人材を輩出してきた学園の近未来の姿を見えるようにするものです。

いま、二〇二六年までの学園中期計画に基づいて、「社会実装の実質化」や「次世代の学びと学修環境の創造」に向けて、様々な活動を推進しています。大学院の充実をはじめ、マンガ学科とキャラクターデザイン学科の統合や、情報デザイン学科におけるゲームクリエイション、映像クリエイションのコース新設など、学部におけるデジタルコンテンツ領域の学びの拡充も進んでいます。また、二〇二六年三月に新校舎「敬天館」が完成したほか、「学生支援センター」の開設に続いて、二〇二六年四月に「学習支援室」「日本語学習支援室」「教育開発室」の二つのセクションで構成する「学習支援・教育開発センター」を開設するなど、学修環境・学習支援の充実に取り組んでいます。

大学の活動を支えるエネルギーの源泉は、みなさん一人ひとりです。芸術教養科目や「ねぶた」、地域社会と連携したプロジェクト、共通工房を活用した制作など、目を見張らせる制作やユニークな研究、それら学生の活発な活動が、本学が前進するための大きな推進力となっているのです。そして、学部学科では、卒業後のみなさんの自己実現を支えるため、「汎用的な就業力の育成」をめざした、キャリアデザイン支援を中核としたカリキュラムを整え、社会に出ていくみなさんにとって必須の〈創造力〉と〈人間力〉を育成します。

自分のためだけでなく、多くの人たちの幸せのために芸術の力をどのようにもちいるのか。また、その力をどのように身につけていくのか。どうすれば、芸術は戦争を抑止し、貧困を根絶する力になるのか。これらの命題を、みなさんとともに考え、追究しつづける大学であること。これこそが建学の理念と通底し、将来にわたる揺るぎない大学のビジョンであり、そのビジョンのもとに、これからもさまざまな先駆的な理論の研究と大胆な実践とを展開していきます。